# Wi-Sun Add-onボード(WISUN-EVK-701)

# 更新履歴

版数	更新内容	更新日
0.2	Refsを追加した。	2023/01/12
0.1	初版を0.1版とする。	2022/08/05

### 目次

- 1. Wi-Sun Add-onボード(SPRESENSE用)概要
- 2. Spresense + Wi-SUN Add-onボード + Host PC システム構成図
- 3. 1対1通信サンプルコード動作確認
  - 1. 通信不能(Ubuntu開発環境)
  - 2. サンプルのバグを修正
  - 3. 修正後のサンプル動作確認
- 4. 1対1通信ログ確認参照資料
  - 1. 状態遷移図
  - 2. HANペアリングシーケンス
  - 3. データ送受信 シーケンス

# Wi-SUN Add-onボード SPRESENSE-WiSUN-EVK-701 概要

• Wi-SUN Add-onボード「SPRESENSE-WiSUN-EVK-701」はSPRESENSEにWi-SUN通信の機能を追加する拡張ボードです。Wi-SUN規格はHEMSやBEMSに適した通信であり、搭載しているファームウェアはリレー通信やスリープ機能を含む、より汎用的に使用できる規格である「Wi-SUN Enhanced HAN」に対応しています。従来の1対多のスター型接続に加え、1対多対多のツリー型接続ができるため、低消費電力かつ長距離通信が可能なセンサノードを実現できます。

#### ※詳細は

https://www.rohm.co.jp/support/spresense-add-on-board

#### 【用語】

HAN: Home Area Network

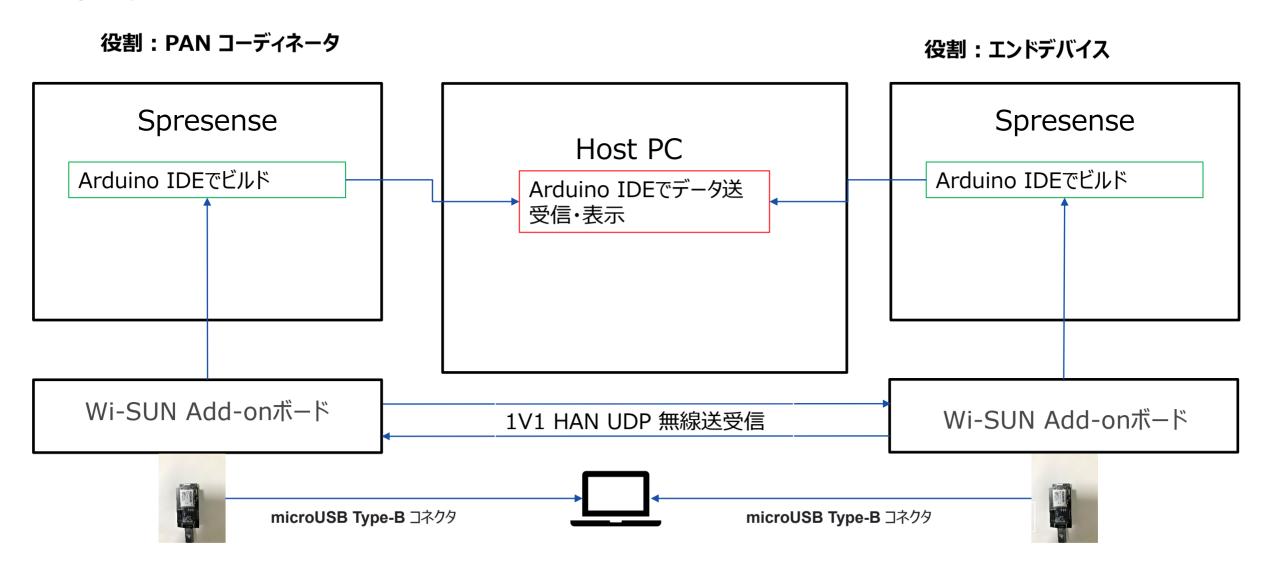
HEMS: Home Energy Management System
BEMS: Building Energy Management System





### Spresense + Wi-SUN Add-onボード + Host PC システム構成図

#### 1. 概略図



# 1対1通信サンプルコード動作確認:通信不能(Ubuntu開発環境)

- ROHM社が提供した1V1のサンプルコードはWindowsで動作確認できましたが、Ubuntuでコンパイルと動作はできませんでした。原因はサンプルコードはバッグがありました。
  - 詳細は次のページで参照してください。

#### Ubuntuで動作確認したときに、通信不能のログ確認

□ <a href="https://fscdn.rohm.com/jp/products/databook/applinote/module/wireless/bp35c0-j11\_uartif\_specification\_tr-j.pdf">https://fscdn.rohm.com/jp/products/databook/applinote/module/wireless/bp35c0-j11\_uartif\_specification\_tr-j.pdf</a>
上記のWi-sun Uart-IF仕様書を参照して下記のことがわかりましたが、初期化コマンドを送信してから、
ずっとリスポンスが来なくて、そして、送信するメッセージがずっと送りばなっしのように見えます。

#### RESET

D0 F9 EE 5D 60 19 0 4 3 91 0 0

こちらはWi-sunモジュールにResetを出して、Wi-sunモジュールはUart2経由でリスポンスしたログです。

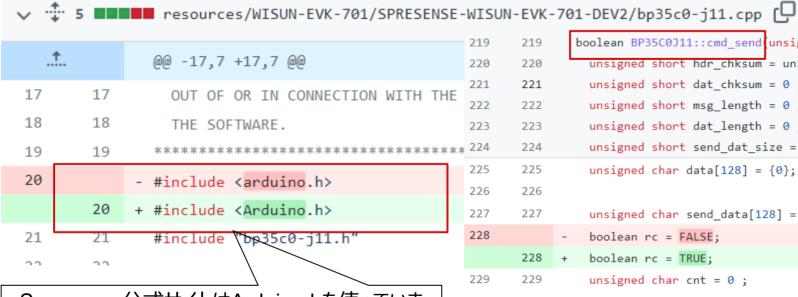
DØ FA 83 FC Ø 5F Ø 8 3 AØ Ø 8 3 Ø 5 Ø

こちらはSpresense→Wi-sunモジュールに初期化コマンドを出しています。 成功の場合はリスポンスは来るはずですが、現状はこないまま下記のログ出力し続けます。

D0 EA 83 FC 0 5F 0 6 3 44 0 24 1 23 D0 EA 83 FC 0 5F 0 6 3 44 0 24 1 23

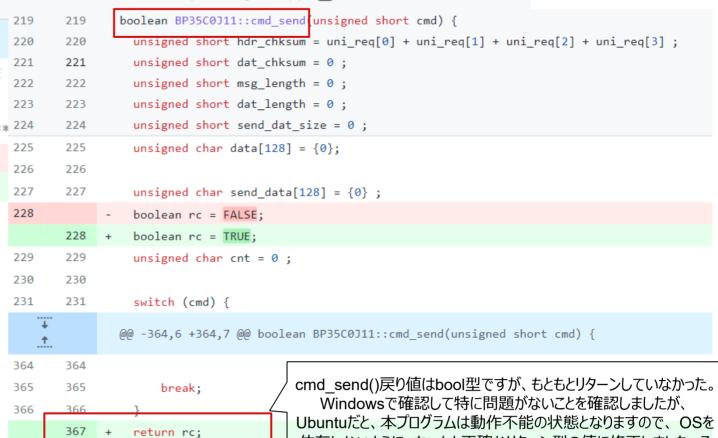
## 1対1通信サンプルコード動作確認:サンプルのバグを修正

### ソースコードを修正前後の差分



Spresense公式サイトはArduino.hを使っています。Windowsで上記大小文字区別しないでコンパイルOKでしたが、Ubuntuだとコンパイルエラーが発生します。OSを依存しないように、正確なヘッダを使ったほうがいいです。

[Spresense Arduino Library OArduino.h] https://github.com/sonydevworld/spresense-arduino-compatible/blob/master/Arduino15/packages/SPRESENSE/hard ware/spresense/1.0.0/cores/spresense/Arduino.h

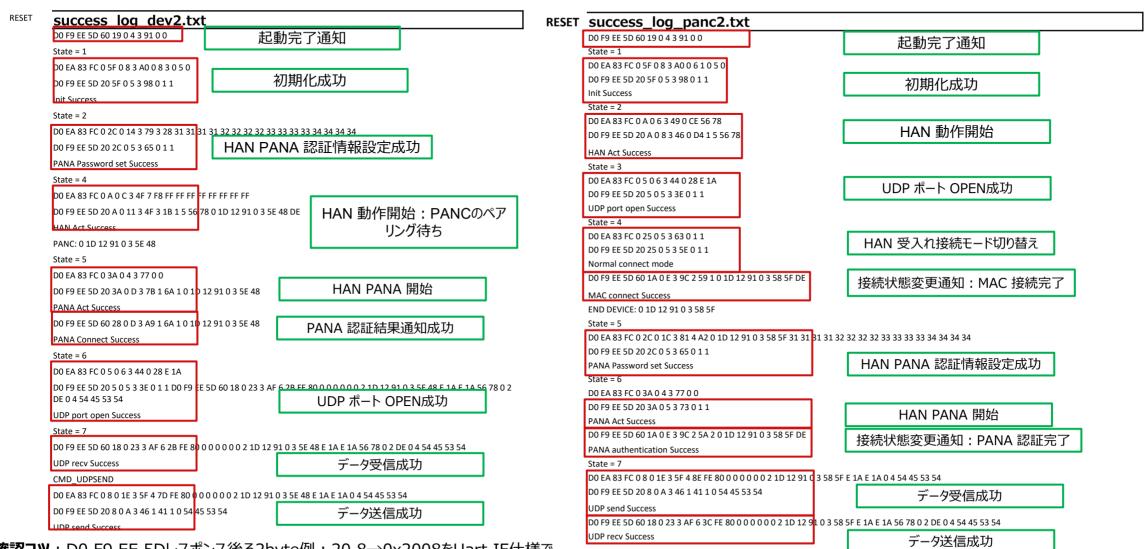


依存しないように、ちゃんと正確なリターン型の値に修正しました。そ

して、Ubuntuでも動作できるようになったことを確認しました。

### バグを修正して1対1通信サンプルコード動作確認できた:下記のUART IF仕様書により、ログ確認

https://fscdn.rohm.com/jp/products/databook/applinote/module/wireless/bp35c0-j11\_uartif\_specification\_tr-j.pdf



※確認コツ: D0 F9 EE 5Dレスポンス後ろ2byte例: 20 8→0x2008をUart IF仕様で検査すれば、早く対応する内容がわかります。

8

# 1対1通信ログ確認参照資料: 状態遷移図

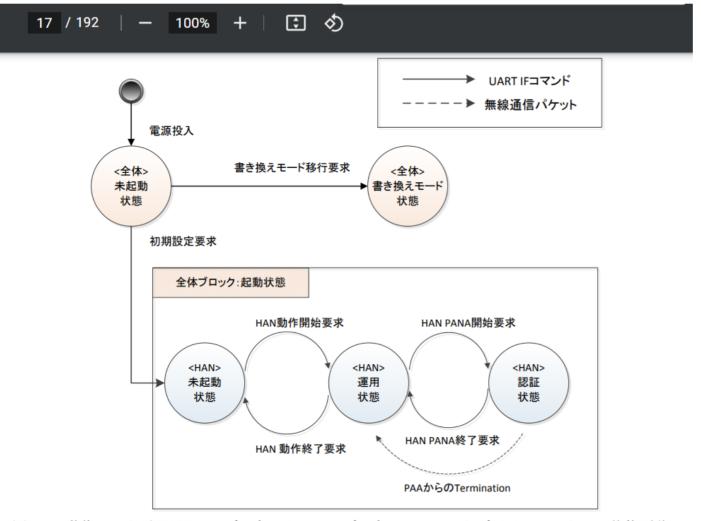


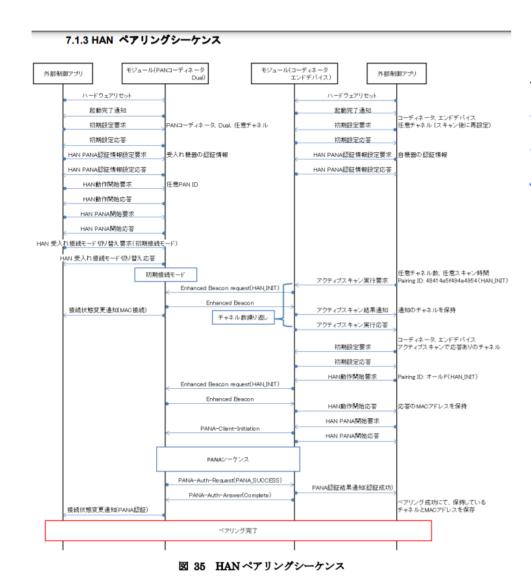
図 3 動作モードが PAN コーディネータ、コーディネータ、エンドデバイスモードでの状態遷移

### 【参照箇所】

https://fscdn.rohm.com/jp/pr oducts/databook/applinote/m odule/wireless/bp35c0j11\_uartif\_specification\_trj.pdf

P17 状態遷移図

# 1対1通信ログ確認参照資料: HANペアリングシーケンス



#### 【参照箇所】

https://fscdn.rohm.com/jp/products/databo ok/applinote/module/wireless/bp35c0ill uartif specification tr-j.pdf

P161 HANペアリングシーケンス

### 1対1通信ログ確認参照資料:データ送受信シーケンス

5.12 データ送受信 シーケンス

#### 5.12.1 データ送受信(ND なし) シーケンス

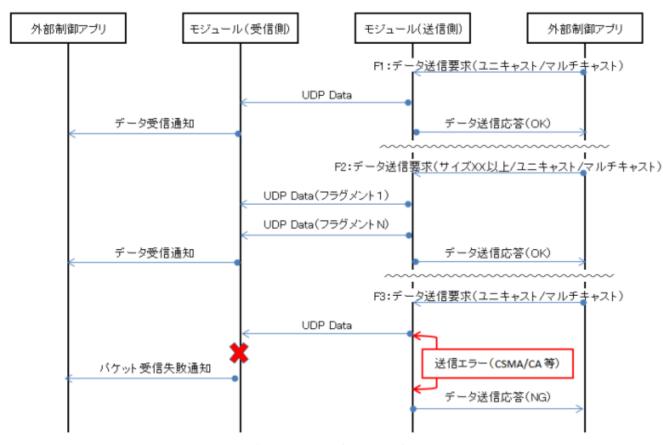


図 18 データ送受信(ND なし) シーケンス

### 【参照箇所】

https://fscdn.rohm.com/jp/products/d atabook/applinote/module/wireless/b p35c0-j11 uartif specification tr-j.pdf

P139 データ送受信 シーケンス